

## 「標準保険料率」、値上げ圧力 国保問題の解決は日本共産党の議席で

国民健康保険税について、山形県が発表した2019年度の「標準保険料率」で試算す

ると、鶴岡市の場合には年収400万円4人世帯で、18年度の41万1300円から42万8500円に、1万7200円も増税になることが分かりました。

皆川市政は19年度、国保税の据え置きを決めています。安倍政権は「標準保険料率」に合わせることを求めており、大幅値上げの圧力がかけられています。

### 県単位で運営 県の役割重要

国民健康保険はこれまで市町村が単独で運営してきましたが、2018年4月から新たに都道府県も保険者となり、都道府県単位で運営する制度へ変更。都道府県は、市町村が税率を算定する「参考値」として、「標準保険料率」を示すこととされました。

国保税の負担は重く、年収の1割を超過しています。

日本共産党は公費1兆円を投入して国保税を「協会けんぽ」並みに抜本的に引き下げる政策を打ち出し、今年選挙に臨んでいます。

国保問題の解決のためには県の役割が重要です。日本共産党の議席がどうしても必要です。

## 庄内地方の凧文化（続）

### 庄内の伝統凧「すみ凧」に新たな知見

鈴木隆（小中島）

「すみ凧」の「すみ」の漢字について、私は物の「隅（すみ）」の「隅」であるとの見解を取ってきた。

全国の凧の絵柄は殆どが中央附近を目立たせ強調されている。「すみ凧」の隅に描かれていた唐草模様は邪鬼を払い、禍を防いで中の大事な物を守るなどの云い伝えから、中にある清正の「蛇の目紋」、つまり加藤家を守ってほしいとの清正信仰に篤い庄内民衆の願いを、隅の唐草に託してインパクトのある大きな構図にしてある。

この青山説について、熊本城内にある加藤神社名譽宮司・湯田栄弘さんに問い合せたところ、隈の字の旁「畏」には「大いに恐れる、不安」の意味がある。清正は1588年、秀吉から熊本の半分を与えられ隈本城に入った。

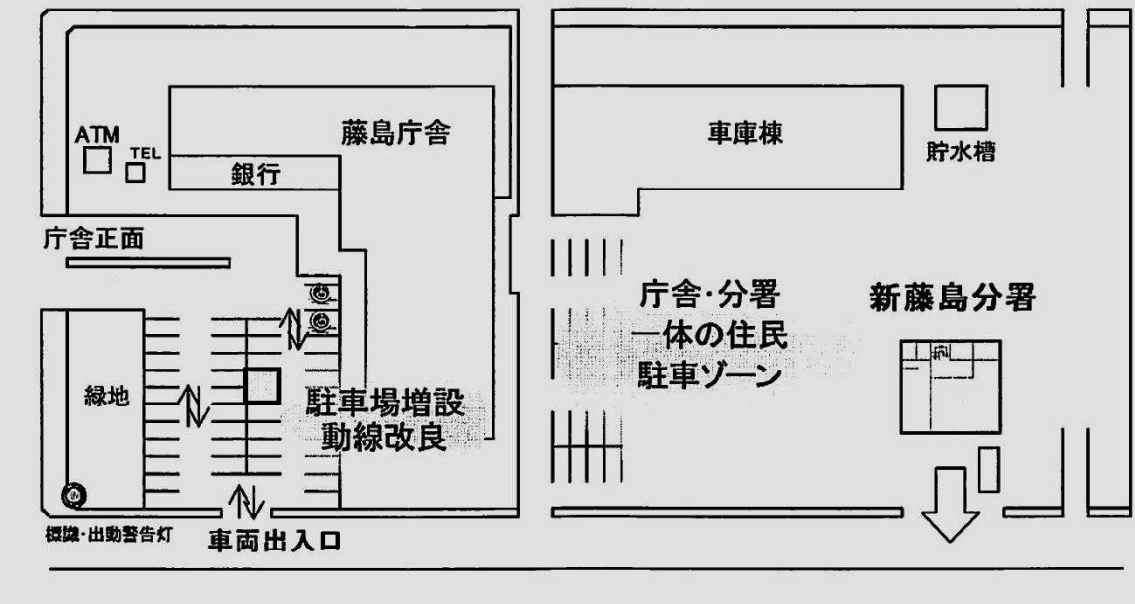
この強調は、左側図の「清正の顔」にも共通している。関ヶ原の戦いでは家康の東軍に組し、功があったとして家康から熊本全土を与えられた清正は1601年から7年かけて現在の熊本城を築城した。その際、長らく居城としていた隈本城は縁起が悪いとして、勇猛な動物である熊の名を取って熊本城と改めた。ゆえに、「すみ凧」の隅に隈本城の隈（隅）を当てる説には無理があるとの所見だった。

この説について、青山崇さん（元高校教師）『藤島地名風土記』著者）から次のような指摘があった。熊本はかつて隈本、隅本とも書いた。隈本は



この強調は、左側図の「清正の顔」にも共通している。関ヶ原の戦いでは家康の東軍に組し、功があったとして家康から熊本全土を与えられた清正は1601年から7年かけて現在の熊本城を築城した。その際、長らく居城としていた隈本城は縁起が悪いとして、勇猛な動物である熊の名を取って熊本城と改めた。ゆえに、「すみ凧」の隅に隈本城の隈（隅）を当てる説には無理があるとの所見だった。

移転位置の案



藤島分署の移転改築  
藤島庁舎敷地東側へ

鶴岡市消防署藤島分署は、昭和49年10月の建設から44年経過し、老朽化が著しく、耐震強度も不足し、早期の改修が求められてきました。平成31年度に実施設計をおこなない、2020年度に改築、21年度に旧施設の解体を行う計画です。

260万人、国土は日本の85%ほどである。産業は原油生産が中心で、輸出額の77%を占め、その収入が経済成長を進展させている。国土の80%が砂漠で、河川がないという悪条件であるが、わずかな高低差を利用し高度な土木技術で造られた「フアラジ」という灌漑施設が約3000カ所あり、生活用水や灌漑用水として、古代から現在まで使用され世界遺産に登録され、ナツメ

ヤシ・ジャガイモ・サヤインゲンなどが生産されている。政治は絶対君主制である。しかし近年、諮問会議が立法権をもつようになったりしている。昔から航海術にすぐれていて海で活躍してきた。特に16世紀から17世紀にかけては、アフリカの東海岸からインドの西海岸まで支配するオマーン大海洋帝国があった。

世界の国々 オマーン  
日本、サヤインゲンを入力

青山 崇



奇しくも、サヤインゲン輸入のせいで最初の国がオマーンになった。地図のようにアラビア半島の東端にある。

長い海岸線と、標高3000m級の山脈や、どこまでも続く砂漠など変化に富んだ美しい国として知られ、首都はマスカット、人口約

260万人、国土は日本の85%ほどである。産業は原油生産が中心で、輸出額の77%を占め、その収入が経済成長を進展させている。国土の80%が砂漠で、河川がないという悪条件であるが、わずかな高低差を利用し高度な土木技術で造られた「フアラジ」という灌漑施設が約3000カ所あり、生活用水や灌漑用水として、古代から現在まで使用され世界遺産に登録され、ナツメ



歴史と川遊び

ナンボになっても学ぶというのは良い事ではないか。テナことで郷土研究サークル（会長 穂積恒夫氏）に入らせてもらった。先日その総会に参加したが、

99年後の宝永3（1706）年との事。なぜ新関因幡守の墓が我が集落・上町の法眼寺にあるのかは、いつか和尚さんに聞こう。

感動したのは、同級生3人が先輩として入っていたのだ。俺が入って4人だから一割を超す数になった。

▲最初に郷土の歴史として因幡堰土地改良区（理事長 富蔵健喜氏）の佐藤友二事務局長さんの講演は、「因幡堰の今昔物語」というもの。

▲今は、イベントなどを通じて地域住民の積極的な参加による新たな維持管理体制の構築を目指しているとの事。地元小学校との連携では、生き物調べ・カナ体験・田植・草取り・ほたる観賞など多彩であり、これら理念に繋がる行動が多くの受賞に輝いていたのだ。

待春 其四  
時候頻過啓蟄天  
鶴城淑景未凡偏  
北藩不道春無夢  
歳歳微情減愛憐

春を待つ 其四  
時候頻りに過ぐ啓蟄の天  
鶴城の淑景 未だ凡て偏からず  
北藩 道わず春に夢 無し  
歳歳 情 微し愛憐を減ず

季節は、またたく間に 啓蟄を過ぎる。

鶴岡では、まだすっかり春の景色に なっているわけではない。

荘内の春には、夢がないとは 云わないけれども

年々、おもいやりの気持ちがなくなり、春をあわれむ心が衰えてきたようだ。

時候季節。頻々すみやかに。啓蟄三月五日。鶴城鶴岡。淑景春景色。凡々すべて。偏々すみずみまで行き渡る。北藩荘内。微々無い。愛憐かわいがり、憐れむ。

▲懇親会の話は専ら大堰（因幡堰をこう呼んだ）で遊んだ子ども時代の話 水浴びのこと。中には古郡から下町まで泳いできた・橋の下を潜ったなど。大堰は両岸が石垣積みみであった（ここにも先人の苦労が）。石垣の隙間から鱈や蟹を採ったゴロサガシの事などで賑やか。大いに勉強になった会だった。（石川）